

香取市佐原地区・重要伝統的建造物群保存地区選定 20周年記念式典が盛大に行われる

佐原の小野川を中心とした地区が、平成8年12月10日に関東で初となる重要伝統的建造物保存地区の選定を受けてから20年目の節目を迎えたのを記念して、平成28年12月17日(土)午後3時より、NPO「小野川と佐原の町並みを考える会」は、「川の駅・水の郷さわら」の多目的研修室を会場に記念式典を開催しました(香取市共催)。香取市長はじめ多くのご来賓から「伝統的町並み」を保存し持続的社會を作り上げる力強い決意が表明されました。また岡山理科大学教授・江面嗣人氏の講演は伝建地区の意義を哲学的に考察する内容の濃いものでした。更に、諏訪上の「大藤」で行なわれた祝賀会には、沢山の応援団がかけつけてくださいました。

指定の重要性とその効果を提唱してくださった高橋賢一氏、建物調査台帳や建物年代別地図の制作をして会員意識の改革を図った加瀬順一郎氏など諸先輩の功績を語り継ぐ責任があります。

この選定は、景観整備や条例制定・住民説明会など行政のご苦労と共に住民意識の啓蒙と合意形成に努力した当会などの「官民協働の作業」の成果として評価されました。条例制



佐藤健太良理事長

特定非営利活動法人
小野川と佐原の町並みを考える会
理事長 佐藤 健太良

平成三年に当会が発足して二五年が過ぎました。その設立に努力された堀井健男氏や佐原市歴史の景観条例制定と重要伝統的建造物群保存地区選定のための合意形成に邁進された清宮利右衛門氏、さらに「重伝建



第59号
平成29年2月
発行 NPO法人小野川と佐原の町並みを考える会
お問い合わせ 佐原町並み交流館
電話 0478(52)1000

定から選定までの期間が短かったため全国の方々から注目されました。平成二二年六月の伊能忠敬翁関係資料集三四五の国指定、佐原の大祭の国指定重要無形民俗文化財、さらに十二月一日のユネスコ無形文化遺産登録と「宝物」に溢れ、小野川沿いでは住民同士の生き生きとした生活があり「生きていく町」「住んでよし、訪ねてよし」の町づくりに住民の愛着と誇りが生まれています。町づくり総合計画、駐車場整備や舟巡り、栃木と川越の「小江戸」の共同宣伝事業、商家のおかみさん達による「佐原まちぐるみ博物館」、観光会社へのアプローチと誘客事業を推進してきた観光協会等々の努力が積み重ねられてきています。

重伝建選定二十周年を機に官民一体の組織を強固にし、更に活力ある地域へと発展するよう折念します。

佐原の山車行事がユネスコ無形文化遺産に登録

平成二八年(2016)十二月一日未明(日本時間)佐原の山車祭を含む三三件の「山・鉦・屋台行事」がユネスコ無形文化遺産に登録され七月八坂神社と十月諏訪神社の大祭が世界に誇れる文化となりました。

文化とは、目には見えない「私」と「物」との間に相互依存しながら存在している。物が伝えるのは、その物が担っている精神であり、そこから生まれる感動は人の心を変える、人の成長には欠かせないものだ等、日本家屋から「床の間」が消滅していく例を中心にお話になりました。

また、歴史的建造物は日本人の個性やプライドを創っていく。文化財は本物でなくてはならない。人づくりにために文化財を創造的に活用し、歴史を活かしたまちづくりをする。常に学習し、社会へ発信して、社会との接点を持ち続けていくこと。そして「創造」とは「教育」であると結びました。

記念講演を聞いて 新井勝治
江面嗣人先生の「文化財保護の理念とその創造的活用」(伝建地区の意義とこれからの佐原)と題する記念講演を聞いて、佐原の町並み保存活動を進める上の重要な指針となる示唆を頂きました。



江面(えづら)嗣人教授

- ### NPO「考える会」行事
- 各月の第一日曜日は骨董市(八坂神社境内)、毎月下旬に案内班会議
- 七月二日〜三日 さわらぼ開催
 - 七月十一日 清水建設三菱館見学
 - 七月十五日〜十七日 佐原の大祭
 - 七月二十日 理事会
 - 八月二日 WMFの視察
 - 八月四日 白楊高校研修
 - 八月十日 三菱銀行佐原支店旧本館保存修理検討委員会
 - 八月十三〜十五日 竹灯り
 - 八月十九日 山武市地図づくり
 - 八月二六〜二七日 星と地球学校御殿場
 - 九月九日〜十一日 全国町並みゼミ参加 福島県大内・前沢大会
 - 九月二十日 伊能忠敬歩測地図づくり学習体験事業・横芝光町大総小学校
 - 九月二三〜二四日 WMF視察
 - 十月五日 小野川清掃
 - 十月七日 佐賀県有田市視察
 - 十月七日〜九日 佐原の大祭
 - 十月十五〜十六日 星と地球学校小見川
 - 十月二二日、二七日 佐原小学校校外学習
 - 十月二九日〜三十日 建物公開
 - 十二月十四日〜十五日 電線地中化地元説明会
- 平成二九年
- 一月十一日 都市整備課「上川岸小公園施設整備工事」地元説明会
 - 一月二二日 日本遺産北総四都市江戸紀行シンポジウム・佐倉
 - 二月二五日 伊能忠敬、歩測・地図づくり学習体験事業・作品展示、表彰式 成田空港

★佐原・町並みボランティア案内班★
活動を始めて20年の成果

年度	案内回数	案内人数
平成 8年	55回	447名
9	60	1,262
10	67	2,620
11	140	3,880
12	174	6,134
13	227	9,998
14	333	11,349
15	394	13,349
16	375	13,144
17	336	12,272
18	337	12,575
19	386	12,795
20	469	15,714
21	480	15,931
22	475	14,665
23	242	7,531
24	328	11,719
25	358	12,037
26	400	12,733
27	319	10,774
28	357	14,336
21年間の総計		6,272回 215,314名

伊能忠敬の心、努力と忍耐を学ぶ測量体験

私たちNPOはこれまで香取市、栄町、多古町、富里町、NAA(株)成田国際空港)、山武市、横芝光町、神崎町、クラブツーリズム、星と地球楽校等と協働でこの一年間、「伊能忠敬に学ぶ地図づくり」事業を実施してきました。来る二月二十五日(土)に成田空港にて、成果発表と「伊能忠敬地図づくり」表彰式を行ないます。



真剣に方位盤をのぞく子ども達



分度器と計算機を使って地図をつくる

江戸情緒を残す・佐原の町並みを描く

越川悦子 作品展

11月28日(月)～12月10日(土)



会場：交流館1階ホール

越川悦子さんは、吉田昌司さん(写真・左)が開催した歴史講座の最初の聴講生で案内班の創立に参加。「佐原町並みかわら版」を手作りし広報班を育て、さらに案内班の半纏をデザインしました。現在は、案内班の責任者として月一回の定例会を定着させ、過去二回の「町並みを楽しむ会」を実施して、案内班の充実に努めて、NPO「考える会」活動の活発化に大いに貢献してきました。また、人形劇団「根っこ座」を創立し、舞台装置やかわいい人形キャラクターをデザインしました。佐原駅近くの観光案内所のガラス絵、閉店した商店のシャッターのペインティング等、多彩な実績を積み重ねて、さらに多忙な福祉活動にも関わっています。傘寿をおかえて益々元気な佐原っ子越川悦子さんの永い画業(30点出品)を堪能できる展覧会でした。

(吉田昌司さん・談) 私達が町並み案内の活動を始めて20年が経ちました。以来21年間で、21万人以上を越す方々をご案内できたことを大変誇りに思います。私の夢は、年間案内回数が500回で案内人数が15,000人でした。これは東日本大震災の前年に実現されました。震災後は大激減しましたが、現在では復活してきています。

観光ボランティアガイド

関東圏大会 in 山梨

二月二日(木)～三日(金)に甲府市で行なわれた大会に新井、植島さんの二名が参加しました。甲府駅北口ベルクラシック甲府が初日の会場。テーマは「東京オリンピック・パラリンピックを迎えるにあたって」で、観光ガイドの役割と心得では、仲間と平らな関係を保ち「この町に住み続けたい」の思いを基本にする。外国人を迎えるには、「おもてなし」の心さえあれば言葉は気にならない等、実例に沿った基調講演がありました。第一分科会は、東京や横浜・静岡の活動紹介、第二分科会は、ガイド中の危険管理がテーマになりました。三日は甲府城下と八ヶ岳・葦崎・昇仙峡のツアーに参加しました。

佐原町並み交流館行事

- 十一月二十日までは前号に掲載済み
- 十一月二十一日(月)～二十七日(日) 日本盆裁協会佐原支部・秋季盆裁展
- 十二月十一日(土) 書星会師範・本宮華水氏 席上揮毫
- 十二月十三日(火)～二十日(月) 佐原の観光と祭り・写真コンクール・二八年入賞者作品展
- 十二月二十八日(水)～平成二九年一月五日(日) さわら・町並み・お正月飾り
- 一月二日(月)～三十一日(火) 山の自然を編んで。つる工芸藤ヶ崎たつ子作品展
- 二月四日(土)～三月二六日(日) さわら雛めぐり「お雛さまの舟遊び」
- 三月十八日(土) さわら雛舟
- ※佐原町並み交流館が、十二月二七日付で認定外国人案内所に登録されました。

シーボルトと佐原を結び

菅井ふみ子・ウォルフアルトさん

香取市は伊能忠敬没後二百年を記念して平成三十年度にシンポジウムなどの記念行事を企画しています。

これに先だつて香取市長がシーボルト家を表敬訪問したいが、その橋渡しをどのようにということになつたようです。佐原町並み交流館・高谷館長は現役当時の副市長が以前ドイツ大使館に勤務したことを知っていたので連絡を取り合う中で、ドイツのローテンブルク在住の菅井ふみ子ウォルフアルトさんの名が挙がりました。館長はふみ子さんの一年先輩で彼女についてよく知っており、クリスマスギフトを扱うウォルフアルト本店や日本提携店を訪れていました。

シーボルトの次女の子孫である現ツェッペリン家は伯爵家で、面会の

機会はなかなか進めにくいという状況でしたが、ふみ子さんはふるさと佐原のためにと真剣にその仲立ちを努めて、香取市長との面会の機会を

取り持つことが出来ました。
(写真・三人のお子さんとご夫妻)
昨年九月に、伊能忠敬記念館の職員二名が再度シユルヒテルンの丘に



Familienfoto, ohne...

シーボルト事件と伊能図

伊能忠敬の没後10年の文政11年(1828)9月、オランダ商館付きドイツ人医師のシーボルトが、伊能図等を所持していることが発覚した。地図を渡した天文方筆頭の髙橋景保は国禁を犯したとして逮捕され獄死した(享年45歳)。後に「生きていれば死罪」との判決が下され、シーボルトも国外追放となった。

髙橋景保は17歳にして昌平坂学問所で成績優秀、20歳からは天文方として伊能忠敬の西国測量を指揮監督、オランダ書の翻訳機関を新設し管理下に置き、30歳で格上の書物奉行も兼ねて、幕府の外交政策や蝦夷地政策にも積極的に進言した。有能な幕臣であったが、その一方で隅田川畔に分不相応な別荘を持ち、趣味の音楽では大名などとも交流するなど、虚栄的な傾向があった。

文化10年の忠敬の書状には「髙橋氏はお上の覚えもよく、色々御用を仰せ付けられ、他の役所の妬みもあった」「私信を出す毎に言葉を謹み、心を慎むことが大切と申し上げてきた」とあり、年若き上司を心配していた。

さて、幕府がシーボルトから押収したとされる地図が、国会図書館が所蔵する「カナ書き伊能特別小図」である。地名の多くが外国人にも読みやすいようにカタカナで記されており、「サワラ」「カトリ」も記載されている。

一方、シーボルトが日本研究の集大成として刊行した『日本』にも、精度の高い日本地図があり、その来歴が問題となっていた。景保から入手した地図は没収されたはずだからである。

昨年7月、佐倉の国立歴史民俗博物館で開催された「よみがえれ！シーボルトの日本博物館」展で、この『日本』所収の地図の来歴が判明した。

この展覧会で公開された、シーボルトの子孫であるフォン・ブランデンシュタイン＝ツェッペリン家に残された地図は、縮尺や表記の特徴などから、「カナ書き伊能特別小図」を写したものと確認されたのである。

シーボルトは長崎奉行から警告を受けると、徹夜で模写したと記している。その模写を持ち帰ることに成功し、『日本』を著して、忠敬の業績を世界に紹介したのである。

(玉造 功)

建つブランデンシュタイン城に住むシーボルト・ツェッペリン家の資料館を訪問して地図を中心に所蔵品を見ることができました。ふみ子さんはローテンブルクより自ら運転して二人を案内し、昼食の機会も設けていただいで、滞りなく目的を果せるように通訳だけでなく万事にわたりお世話をしていただきました。記念館の職員は、ふみ子さんの通訳には「私達にとってふみ子さんは神様でした」と語っています。

ウォルフアルトさんご一家

菅井ふみ子・ウォルフアルトさんは佐原町並み交流館に隣接する「忠敬茶屋」を経営する菅井家の次女として昭和四九年(一九七四)に佐原高校を卒業後、上智大学でドイツ語を学び、語学研修の折に、ドイツ・ローテンブルク市庁舎前の有名なクリスマスプレッジ「ケーテ・ウォ

ルフアルト」を度々訪れるうち、ウォルフアルト家のハラルドさんと知り合い一九八六年九月に結婚しました。

一台のオルゴールから

創業者であるウエルヘルムと妻ゲーテさんご夫妻は、一九五六年に旧東ドイツから西ドイツへ亡命しました。故郷ザクセン州からシユツツガルト近郊のポプリンゲンへ一緒に携えてきたのが一台のオルゴールでした。一九六三年、クリスマスに招待した友人のアメリカ軍将校一家がそれを見てすっかり気に入ってしまいました。エルツ山地製のオルゴールを八方手配してやっと手に入れましたが、他の製品も買ひ取るはめになりましたので、更に商品を買ひ足しドイツ駐屯のアメリカ軍基地内の慈善バザーで販売した。そして、一九六四年、奥様の名をとった「ケーテ・ウォルフアルト」店が誕生しました。

ウォルフアルト」店が誕生しました。人気店となり、一九七七年にローテンブルクへ移転します。ヘルンガツセー番地に一九八一年に開設したクリスマスプレッジは息子のハラルド氏が手がけました。オリジナル商品にしぼったクリスマスプレッジは海外からの観光客の人気の観光スポットになりました。クリスマスシーズンは各地のマーケットに出店します。日本を含めた世界中に専門店が開設されて、二〇〇〇年九月にはドイツ初の常設「クリスマス博物館」がオープンしました。

町並みを歩いて(その十四)

重伝建地区の隠れた魅力を発掘

火災から町を守る

昨年十二月二日の新潟県糸魚川市の大火は町の中心部を焼き尽くしました。重伝建地区では二〇一五年の川越の菓子屋横丁の火災が思い出されます。いずれも木造住宅と消防車の入りにくい場所での火災でした。

佐原の重伝建・景観地区を歩くと各所に扉に「消火栓」と書かれた小さな箱が設置されています。

消火栓がある理由

平成八年に佐原の中心地区が重伝建指定を受けた際、消防署からは、町並みを整える場合には建築基準法に基づく防火不燃材の使用を指導されましたが、保存会がぜひ木材を使わせてほしいとお願いした結果、その防火対策として三二ヶ所の「消火

栓」を設置することになりました。箱の中には、水道とつながる約四十メートルの消火ホース一本と予備ホース一本。八十メートル四方に放水可能です。非常時は、扉を開けてホースを一杯に引き出し、右上の栓をひねり、次に左下にある凍結防止用の底蓋を開けて栓をひねります。

小野川からも取水



重伝建地区の中に溶け込んでいる消火栓。日頃から防火に心掛ける。

地区の近くで火災が発生した際三台の消防車が連結されて小野川から直接取水したことがあります。町の中央に川がある恩恵です。

現在の「消火栓」は二十年を経て老朽化が進んでいるので近々にホースを新調する予定です。毎年二月には住民に呼びかけて重伝建地区内で消火訓練を行います。

明治の大火災の記憶

佐原の中心地は明治二十五年に大火災を経験しています。常に火災には備えていなければなりません。



まず、ホースを一杯に伸ばし、①の栓を開け、次に②の蓋の下の栓を。

観光案内に感謝の礼状

(その16)

建物公開の日、「正上」で案内していると、男の子が両親と妹さんに説明をしながら邸内を廻っていました。千葉市内の小学5年生で、2年前に佐原で校外学習をした経験があり、建物公開日にご家族を連れて来たのでした。

(案内班・根本さん)

観光案内所で案内をしていた日に、男の子を連れて来たお母さんが「おみやげを買いたい」と訪ねてきました。お子さんが佐原で総合学習をしたので、今度はお母さんを連れて来たのでした。

(案内班・白木さん)



総合学習の子ども達。また佐原に来てね!

「館長さ〜ん」と呼ぶお子さんの声と一緒に母さんがカウンターに近づいて来ました。以前、交流館内で説明を聞いてとても参考になったので、今度は子供を連れて来たのだということでした。リピーターの方々が増えてきてとてもうれしいです。

(町並み交流館館長・高谷さん)

伊能忠敬第六次全国測量 四国を一周・忠敬は再度の持病に苦しむ

伊勢山田で越年・忠敬の苦難の旅

第六次は前回の反省から四国内と大和路測量に限った旅で文化五年一月二十五日(一八〇八・二・二十一)に出発した。忠敬は六四歳。坂部貞兵衛(老齢の忠敬の補佐、三四歳)。

青木勝次郎(天文方下役・忠敬の肖像画を描く)。下河辺政五郎(作図の中心者)。柴山傳左衛門(忠敬の長男景敬病死の折、師景保に代わり佐原との連絡役をした)。内弟子として稲生秀蔵(内妻の子)、植田文助、久保木佐右衛門(津宮の人。器具等の運搬担当)。供侍の神保庄助(忠敬の兄貞詮の子)。棹取として佐助(津宮の人)と善八。草履取の藤吉、他四人の十六名。

各藩はとても協力的

本隊と支隊の二班に

東海道を西に向かい、一部の街道を測量しつつ浜松から気賀街道を迂回。浜松で忠敬は持病の喘息発作に苦しむ。大阪から淡路島へ渡り鳴門の渦潮を見て高知辺から測量隊は忠敬本隊と坂部支隊に分れた。坂部支隊は測量精度を高めるため国境まで内陸部の縦断測量。忠敬はこの辺でも喘息の発作で療養することになるが、測量隊は順調に進んで行った。

見物人で溢れる

土佐海岸では物珍しさに沢山の漁

四国内では、一部に警戒する藩もあったが、測量隊のために道を新設したり、整備したり、家臣を派遣してくれたりとても協力的だった。十一月二十一日に大阪に着いてから、半月余も患っていた我が子秀蔵を江戸へ返した。第一回測量から参加してきた秀蔵も二十歳になっていた。彼は江戸へ帰府後、深川黒江町の留守居を預かり連絡役もこなした。大和路から伊勢山田で越年し、元日には、伊勢神宮外宮・内宮を参拝。文化六年一月十八日(一八〇九・三・三)に江戸へ帰着。総日数三七七日は、忠敬には過酷な旅であった。